

箕面市教育大綱別紙 2023 の中間報告

学校教育 子どもたちの「生きる力」と「つながる力」を育みます

① 児童生徒を誰ひとり取り残さない支援

- ◆児童生徒が持つそれぞれの個性や力を最大限成長させるため、支援の必要な児童生徒については、新たに策定した箕面市支援教育方針に基づいて、全ての小中学校への通級指導教室の設置等、支援教育の充実のための取り組みを行う。
- ◆学校になじめない、学習についていけない、病気等による長期欠席、生活困窮家庭及び日本語を母語としないなどの児童生徒において、必要となる学習手段、居場所づくり等の支援を実施する。また、いじめの未然防止を強力に推進する。

(1)支援教育

令和 5 年度上半期取り組み

箕面市支援教育方針に基づいて、以下のことを実施しています。

- 令和 5 年 7 月 18 日に第 1 回箕面市支援教育充実検討委員会を開催し、昨年度に策定した箕面市支援教育方針の進捗状況を確認しました。
- 支援学級に在籍する児童生徒について、アセスメントに必要なアンケートを保護者に配布し、全ての小中学校に導入した LITALICO 教育ソフトで、アセスメントシート、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成しました。保護者にレーダーチャートなどの視覚的に分かりやすいアセスメントシートを提示し、児童生徒へのよりよい支援につなげていきます。

(作成対象児童生徒)

| | |
|--------|---|
| 支援学級在籍 | 小学校 1 年生・6 年生、中学校 1 年生、小中一貫校 1 年生・6 年生・7 年生 ※保護者のニーズに応じて、他学年でも必要に応じて作成 ※支援教育推進校(止々呂美小・中小・豊川南小・一中・五中)は、全ての支援学級在籍児童生徒を対象に作成 |
| 通級指導教室 | 令和 5 年度より新規利用を開始した児童生徒 |
| 通常学級 | 令和 6 年度より支援学級への入級を希望する児童生徒 |

- 通級指導教室を全校設置し、自立活動が必要な児童生徒に週 1～2 時間の支援および指導を実施しています。また、新規通級指導教室担当者の育成を円滑に進められるよう、4～6 月に研修会を 3 回実施し、全校の通級指導教室担当者の資質向上に取り組みました。
- 支援教育コーディネーターや支援学級担任、通級指導教室担当者 26 名を対象に、特別支援学校教諭免許の取得費用をサポートしました。(最終的な免許の取得は令和 6 年 3 月を予定。)
- 小中一貫校 2 校と大規模校 2 校(西小・豊川南小)において、専門性の高い「支援教育支援員(任期付)」を 1 名から 2 名に増員をしました。
- 支援教育コーディネーターや支援学級担任の 6 名に、府立豊中支援学校への派遣研修を実施しました。
- 教育委員会事務局人権施策室に支援教育専門員を 1 名配置し、5 月までに各校を巡回し、6 月以降は要請があった学校を中心に訪問し、支援教育の充実に向けて学校管理職及び支援教育コーディネーターに助言しました。

今後の方向性

- ▶ 令和5年度は箕面市支援教育充実検討委員会を3回開催し、効果検証を実施していきます。
- ▶ 全ての教職員へ支援教育に関する研修を引き続き、実施していきます。
- ▶ LITALICO 教育ソフトによる教材の活用及びアセスメントの効果検証を進めていきます。

(2)いじめ・不登校

令和5年度上半期取り組み

- 子どものSOSを早期に発見し、即時対応できるよう、全校で使用している学習支援ソフト「tomoLinks」内に「こころの日記」機能を導入しました。1学期に相談登録があった433件については、即時対応することができました。
- 生徒指導担当者会で、大阪府スクールソーシャルワーカースーパーバイザーを講師として招いた他職種連携をテーマにした研修や、児童相談支援センターの指導主事による、虐待の早期発見、対応に関する研修を行いました。
- 不登校児童生徒への対応について、各校の好事例を不登校担当者会で共有し、登校に課題のある児童生徒へ継続して支援を行っています。また、登校に関して不安を抱えている児童生徒や保護者への心理的ケアとして、各校から教育相談の活用を促しています。結果として、1学期末時点で教育相談の件数が昨年度より約1,000件増加しています。
- 学期に1度、指導主事が全校を訪問し、不登校または登校に課題を持つ児童生徒に関するヒアリングを行い、対象となる児童生徒の対応を確認しました。それぞれの状況に応じたスモールステップの方法等の助言や指導を行い、スクールソーシャルワーカーや教育相談等の関係機関につなぐことができました。
- 全教職員を対象とした「いじめ重大事態への対応」及び「特別支援教育の今後」に関する研修を行いました。

今後の方向性

- ▶ 生徒指導提要の研修をもとに、「全ての児童生徒の諸課題の未然防止や問題行動に対して初期の段階で対応する『課題予防的生徒指導』」と「全ての児童生徒を対象に、児童生徒が自発的・主体的に自らを発達させていくことを支える『発達支持的生徒指導』」を中心にした、いじめ、不登校、暴力行為などの未然防止の研修を生徒指導担当者会でを行います。
- ▶ 引き続き、「こころの日記」や「i-check」を活用し、児童生徒の悩みや課題について即時、対応していきます。
- ▶ 生徒指導担当者会で、いじめ重大事態の早期発見・早期対応に努めるための研修を実施します。
- ▶ 課題のある児童生徒に適切な支援ができるよう、スクールソーシャルワーカーや関係機関と連携し重層的な支援を実施します。
- ▶ 今後も全校ヒアリングを行い、不登校または登校課題をもつ児童生徒に対して、関係機関とつながれるよう学校と連携して働きかけを行っていきます。
- ▶ 不登校または登校課題をもつ児童生徒の学習保障や居場所保障を図るため、自宅から学校以外の場所にもつながれるよう、適応指導教室(フレンズ)のWi-Fi整備等を検討します。

(3)日本語支援

令和5年度上半期取り組み

●日本語指導支援事業

児童生徒向け授業サポートなどの日本語指導ボランティアの派遣や、保護者向け懇談会などの通訳者の派遣を実施しました。

※()内は R4 年度実績

| 日本語指導 | 言語 | 対象人数 | 派遣時間 |
|------------------------------------|----------------------|--------------------------|-----------------------------------|
| 箕面小、止々呂美小、 南小、豊川南小、 彩都の丘小、四中 | 英語、中国語、 韓国語、モンゴル語 | 小学校:8人(7人) 中学校:3人(6人) | 小学校:144h(255h) 中学校:33h(256.5h) |

| 保護者通訳指導 | 言語 | 対象人数 | 派遣時間 |
|--------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--------------------------------|
| 箕面小、南小、 萱野東小、豊川南小、 一中、二中、三中、四中 | 英語、中国語、韓国語、 タイ語、モンゴル語、 ネパール語、 | 小学校:6人(5人) 中学校:4人(7人) | 小学校:14.5h(13h) 中学校:10h(24h) |

●放課後等日本語教室支援事業について

児童生徒を対象とした日本語指導ボランティアによる日本語教室を、放課後等の時間に週1回実施しました。

[実施校] 萱野小、止々呂美小、東小、豊川南小、二中、四中、五中

今後の方向性

- ▶ コロナの収束に伴う入国制限の緩和により、日本語支援の対象となる児童生徒がいつ転入してくるか、先行きが不透明な状況にあります。そのため、今後も急な転入が考えられるため、学校からの要請があった際に速やかな対応ができるよう、引き続きボランティア確保に努めていきます。
- ▶ 箕面市国際交流協会などの機関と連携し、市内の日本語支援を必要とする児童生徒やボランティアの状況について、情報共有を丁寧に行っていきます。

(4)学習支援

令和5年度上半期取り組み

- 不登校や病気による長期欠席等により学習支援を必要とする児童生徒を支援するとともに、当該児童が中学卒業後においても将来の進路を選択する能力を習得する機会を提供するため、学習を中心とした支援を行う学生サポーターを派遣しました。

※()内は R4 年度実績

| 委託先 | NPO 法人あつとすくーる | 株式会社ライグループ |
|------|-----------------------------|---------------------------|
| 担当校 | 二中校区、五中校区、 六中校区、とどろみの森学園 | 一中校区、三中校区、 四中校区、彩都の丘学園 |
| 利用者数 | 56人(77人) | 72人(84人) |

今後の方向性

- ▶ 引き続き、各関係機関と連携し、学習支援を実施します。
- ▶ 委託事業者と連携し、学生サポーターの人材確保を進めます。

(5)すたさぽ

令和 5 年度上半期取り組み

- 市立小学校において放課後学習室「すたさぽ」を開室し、児童が自由に参加して学習できる場を提供しました。
- 原則週 5 日、放課後の時間帯に開室し、放課後学習支援員として退職教員等が児童の学習を支援しました。

[1 日の平均利用者数] 38 人/1 校

今後の方向性

- ▶ 生活困窮世帯の児童の参加促進のため、学校と連携を進めます。

② 小中一貫教育のさらなる推進

- ◆ 校区連携型でも施設一体型でも全市的に小中一貫教育を充実していくため、現在の小中一貫教育の推進に関する方針を踏まえた「箕面市小中一貫教育推進計画(仮称)」を策定する。
- ◆ プログラミング的思考を育むため、9年間の連続性のあるカリキュラム策定や、校区連携型小中一貫教育の推進に向けた小中学校間を一体化した人事配置を引き続き進める。

令和5年度上半期取り組み

- 小中一貫教育推進計画検討会議を4月、6月、9月に開催し、有識者や現職教員、管理職等の意見をもとに、箕面市全体における小中一貫教育に関する課題(9年間を見通した各教科毎のカリキュラムの整備等)の洗い出しや、それに対する具体的施策として、小中一貫教育コーディネーターの配置等について検討をしました。
- 小中一貫教育推進連絡会では、第1回で箕面市の小中一貫教育の推進体制等について情報共有を行うことができました。また、第2回では各校区の小中一貫教育に係る具体的取り組みの年間計画について、情報共有を行いました。
- (仮称)箕面市立船場小学校の校種再検討については、学識経験者や地域にお住まいの方々から様々なご意見をいただきながら検討を進め、五中を市立病院の移転後の跡地に移転することで、新設校を施設一体型小中一貫校とする方向性が決定しました。また、中小の卒業生については、新設校に進学していくことを前提に検討しました。
- 昨年度に引き続き、小中学校間を一体化した人事交流を行いました。

| 年度 | R3～ | | R4～ | | R5～ |
|-----|---------|---------|-----------|-----------|-----------|
| 学校間 | 五中 ⇒ 中小 | 中小 ⇒ 五中 | 四中 ⇒ 萱野東小 | 萱野東小 ⇒ 四中 | 六中 ⇒ 豊川北小 |
| 科目 | 英語科 | 保健体育科 | 支援学級 | 英語科 | 英語科 |

今後の方向性

- ▶ 「箕面市小中一貫教育推進計画」について、令和5年度中の策定に向けて、教育委員会・学校・家庭や地域それぞれの立場から、具体的に取り組むべき施策案の検討を進めていきます。
- ▶ 引き続き、小中一貫教育推進連絡会を開催し、各校区における具体的取り組み等について、情報共有を進めていきます。
- ▶ (仮称)箕面市立船場小学校の校種再検討については、今年度末を目標に校種と通学区域を決定していきます。そのため、箕面市通学区域審議会を開催し、通学区域に関する審議を行っていただきます。
- ▶ 第2回プログラミング大会の開催については、対象学年を小中学生に拡大して開催することに向けて準備を進めていきます。
- ▶ プログラミング的思考を育む為の実践指導案を作成し、各教職員が参考とできるように展開していきます。

③ 英語教育の強化によるグローバル人材の育成

- ◆英語で自分の考えを伝え、他者とコミュニケーションを図れるように、英語指導助手や英語専科加配の教員を活用したチームティーチングや1クラスを分割した少人数での授業を行う。
- ◆英語での発話量を増やすため、「目的」「状況」「場面」を設定したスピーチや会話をする授業をとおして、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4つの技能をバランスよく習得させる。
- ◆多文化理解も深めながら、英語で自分の考えを表現する実践的なコミュニケーション能力の基礎を築く。

令和5年度上半期取り組み

- 今年度より教育委員会事務局に新規配置した英語教育スーパーバイザーが、学校巡回と指導助言を定期的に実施しました。また、西小においては市内小学校英語専科教員を対象とした公開授業を行いました。
- これまでの授業よりもより具体的に「目的や場面、状況等」を意識した授業づくりができるよう、「Enjoy English」を改訂しました。また、英語教育スーパーバイザーが「Enjoy English」を活用しながら指導助言を行い、特に小学校高学年においては、「英語を使うことが楽しい」と印象に残る授業作りに取り組みました。
- 外国語指導助手76名を、全ての小中学校に複数名配置し、教員とのチームティーチングや少人数分割指導などを通して、児童生徒一人ひとりの発話量を増やしたり、本物の英語に触れさせたりすることができました。
- 箕面小・中小・南小・萱野北小では、当該中学校区のALTを集めて英語授業を行い、児童たちが日本文化をALTに紹介することで、英語を使う必然性を高め、効果的な言語活動につなげました。
- 8月に新規配置されたALTに対して、箕面市国際交流協会と連携しながら研修等を実施し、新しく配置された学校で授業にスムーズに入ることができるよう、サポートを行いました。

今後の方向性

- ▶引き続き、効果的な言語活動を取り入れた質の高い英語授業を実施できるよう、英語教育スーパーバイザーを中心に、指導助言を進めていきます。
- ▶今年度も全小学校6年生向けに実施するイングリッシュタウンを開催します。
- ▶昨年度に引き続き、「第9回箕面市イングリッシュ エクスプレッション コンテスト」を大阪大学外国語学部箕面キャンパスにて開催します。
- ▶英語を使う必然性を高め、効果的な言語活動を行うために、中学校区のALTを集めて行う英語授業を全中学校区に拡充していきます。

④ ICT を活用した情報活用能力の向上

- ◆情報の収集・判断・処理といったICTを活用する能力の向上を図るため、学習支援ソフト(tomoLinks)を活用し、オンライン授業、デジタルドリルを活用した個別学習、日常的な持ち帰り学習を進める。
- ◆これまで蓄積してきた個々の学びのデータ分析に先端技術(AI)も活用し、児童生徒の9年間を通した継続的な学習支援を行い、一人ひとりの確かな学力の定着を目指す。

令和5年度上半期取り組み

- 先端技術を活用した授業分析について、6月末段階で豊川北小、一中、彩都の丘学園より要請があり、計9本の授業撮影・分析およびフィードバックを実施しました。なお、本市のICTにおける先端技術を活用した取り組みについて、NHKの「おはよう日本」にて特集が生まれ、全国放送されました。
- 教職員の学習支援ソフト(tomoLinks)の活用能力や操作スキルの向上を図るため、全教職員対象の研修会を実施しました。研修会後のアンケートでは、「操作などは分かりましたか」という質問に対して、100%の肯定回答を得ることができました。
- 各学校の教職員で構成される情報教育研究部会にて、「学習支援ソフト(tomoLinks)の効果的な活用について」および「情報モラル・情報リテラシー教育」を今年度の研究テーマとし、授業実践、実践事例の収集、指導案の作成・収集を実施するための協議を行いました。
- 教職員の学習系端末と校務系端末を統合した環境構築に向け、環境構築についての検討や、入札に向けた準備をしています。
- 児童生徒端末の故障・破損に対する修理・交換の状況把握ができるよう、委託業者との情報共有の手段を見直しました。また、故障・破損端末との交換用として、新たに端末を購入し、速やかに児童生徒へ配備できるよう整備しました。

今後の方向性

- ▶ 先端技術を活用した授業分析について、取り組み内容の普及をするとともに、積極的な利用を促していきます。
- ▶ 教職員の学習支援ソフト(tomoLinks)の活用能力や操作スキルの向上を図るため、各校の要望や実態に合わせ、引き続き研修会を実施します。
- ▶ 教職員の端末環境を構築するため、総合評価入札を実施し、事業者を決定するとともに、新環境構築に向けて綿密な打ち合わせを行っていきます。
- ▶ 児童生徒端末の故障・破損状況を把握し、迅速な対応ができるよう、委託業者との連携を図ります。
- ▶ 情報活用に伴う危険に対処するため、情報セキュリティ、リスク管理等の研修を検討・実施します。

⑤ 体力向上を図る取り組み

- ◆児童生徒の運動習慣を育み、体力づくりを図るため、副読本・指導書を活用した体育授業から運動に対する意欲を高める取り組みや、民間プール活用モデル事業による教育的効果を検証する。
- ◆学校の活動だけでなく、地域・家庭でのスポーツ活動を啓発していく。さらに、保育所・幼稚園と連携しつつ、学校における体育授業を充実させる取り組みを実施する。

令和5年度上半期取り組み

- 副読本・指導書を活用した子どもたちの「わかった・できた」を大切にした体育授業から運動に対する意欲を高め、体を動かすことが大好きな子どもを育むとともに、熱中症対策をしたうえで夏季の運動機会の確保に努め、児童生徒の体力向上を図りました。
- 4月に小・中学校体力向上推進部会を開催し、箕面市内の子どもたちの体力における課題、体力調査の行い方や場づくりなどを説明しました。また小学校体力向上担当者には、「年間カリキュラム」や「校区体育授業公開研究会」に関する情報共有を行いました。
- 4月～6月に箕面市体力・運動能力調査を実施しました。
- コスモスポーツクラブと連携した「指導研修会」を7月に実施し、器械運動領域で、授業の行い方について学びを深めることができました。
- 昨年度の民間プール活用事業のモデル校であった北小に、箕面小・萱野北小・豊川北小の3校を新たに加えた計4校を今年度のモデル校とし、天候に左右されない民間プール施設で、専門インストラクターの指導のもと、児童の泳力向上、教員の水泳指導力の向上を図ることを目的とした民間スイミングスクール活用事業を6月(豊川北小は12月～)から開始しました。
- 部活動の地域移行については、新たにPTA連絡協議会代表と中学校長会代表を加えて、部活動地域移行実行委員会を実施しました。また、部活動の在り方検討プロジェクト会議を開催し、全中学校長と今年度のモデル実施や今後の地域クラブの方向性について協議したほか、地域の団体、企業とも今後の地域クラブの在り方に関する情報交換を行いました。なお、今年度の部活動地域移行の運営主体については、総合評価入札でスポーツデータバンク株式会社に決まりました。

今後の方向性

- ▶ 副読本・指導書の効果については、11月に分析結果を箕面市ホームページに掲載します。
- ▶ 10月に今年度2回目となる小学校体力向上推進部会、中学校体力向上推進部会を開催します。
- ▶ 1月にコスモスポーツクラブと連携した今年度2回目となる「指導研修会」を実施します。
- ▶ 2学期以降も、モデル校4校にて民間スイミングスクール活用事業を実施します。引き続き、教育的効果・財政的効果について総合的に分析・検証します。
- ▶ 部活動の地域移行については、スポーツデータバンク株式会社と連携して、保護者説明会、指導者研修、アンケート等を実施します。
- ▶ 令和4年度に地域クラブの活動をモデル実施したテニス、ソフトボールを複数校へ拡げてモデル実施します。また、テニス、ソフトボール以外の種目については、いずれかの学校でモデル実施します。
- ▶ 10月に保幼小が連携した体育科授業研究会を実施します。架け橋期の子どもたちの体力面についての実態を共有し、授業の進め方・教材のあり方について検討を進めていきます。

⑥ 教員の授業力・指導力のさらなる向上

- ◆教員の授業力・指導力の向上を図るため、教育専門監を現在の2名から5名に増員し、訪問校の教員を直接指導するとともに、全小学校の若手教員を指導する中堅教員に指導助言する。
- ◆中学校の授業改善に向けた各教科の授業研究の推進に関する支援や、教員が働きやすい学校運営体制の整備を進めていく。

令和5年度上半期取り組み

- 教員の授業力・指導力のさらなる向上のため、令和5年度に新たに3名の教育専門監(候補生)を配置し、5名体制で全小学校14校を指導する体制としました。
- 5名の教育専門監は、各担当校において計31名の中堅期で授業力のある教員や授業改善に積極的に取り組む教員を直接指導(示範授業、チームティーチングでのサポート、授業づくりの助言等)しました。また、担当校の研究部長へ校内研究活性化のための助言や校内研究のあり方についての協議等を実施し、校内研究体制の確立を図りました。
- 中学校の授業改善を図るため、四中を今年度の校内研究支援校に指定し、「授業で生徒が主体的に考える場面・考えたことを表現する場面を作る」というテーマのもと、講師を招聘して複数教科(社会・数学・英語)の研究を進めるとともに、当該校の研究を市内外へ広げるため、英語の公開授業(令和6年1月15日に実施予定)を豊能地区相互交流研修に設定して他市町へも案内しました。
- 箕面市教育研究会・箕面市人権教育研究会・箕面市外国人教育研究会と連携して7月31日に実施した合同一日研究会では、中学校理科部会の研究発表の機会を設定するなど、中学校の授業研究の推進を支援しました。
- 学校組織体制の再構築に向け、「パイロット校」(箕面小・豊川南小・二中・彩都の丘学園)、「ミニパイロット校」(西南小)において、校長・教頭と教職員の間をつなぐミドルリーダー層を明確化し、ピラミッド型の組織編成を行いました。また、「事務支援員配置校」(西小・萱野東小)では、事務支援員の配置による教職員の業務削減効果を検証しました。現状の取り組み状況を確認するために、各実施校にヒアリングを行い、今後の展開について情報交換を行いました。

今後の方向性

- ▶ 新たな教育専門監の養成に向け、教育専門監が各担当校において指導にあたりながら、次期教育専門監の資質を有する人材の発掘・選定を行います(令和6年度に教育専門監の養成のための「指導力向上研修」を実施する予定)。
- ▶ 引き続き、中学校の授業改善を図るため、校内研究指定校での取り組みを推進するとともに、豊能地区相互交流研修に向けた準備を進めます。
- ▶ パイロット校等の学校組織体制の再構築については、国からの「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策(提言)」を踏まえながら進めていきます。

⑦ 35 人学級の早期実現

- ◆国の動きに先駆けて、令和 5 年度に小学校 5 年生を 35 人学級とし、1 年前倒しで令和 6 年度までに順次、全学年へ拡大することで、きめ細かな指導体制・環境整備を早期に構築する。

令和 5 年度上半期取り組み

- 国の動きに先駆けて、令和 5 年度に小学校 5 年生を 35 人学級にするため、南小、北小、西小、豊川北小、彩都の丘学園の 5 校において各校 1 名ずつ、計 5 名の教員を市費で配置しました。なお、萱野東小は、校内体制により小学校 5 年生の 35 人学級を実施(10 月 1 日付で市費教員を配置予定)しました。

今後の方向性

- ▶ 令和 6 年度は、国の動きに先駆けて小学校 6 年生を 35 人学級にするため、引き続き講師の人材確保に努めます。

⑧ 持続可能な社会に向けた学習の充実

- ◆新型コロナウイルス感染症対策に臨機応変に対応した学校運営を継続していく。また、SDGs の 17 の目標を実現するために、学校における教育活動をとおして児童生徒たちが自ら考え、解決していく力を育む。

令和 5 年度上半期取り組み

目標 4 質の高い教育をみんなに

- 青少年教学の森野外活動センターは、昨年リニューアルオープンした施設に加え、4月28日に新たに第1・第3キャンプ場などをオープンしました。また、青少年健全育成事業(主催事業)として、年間全12事業開催予定のうち、小学生サマーキャンプと、わくわくキッズキャンプを開催しました。いずれも広報誌「もみじだより」で広く募集をかけ、多くの子どもたちが自然・野外活動を体験しています。

目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに

- 全ての小中学校(20校)の太陽光発電設備設置工事を進めています。1校あたり最大150kW容量、全校合計で約3,000kW容量(標準的な一般家庭における1日の消費電力量の約685軒分に相当)の発電設備の設置を予定しています。

目標 11 住み続けられるまちづくりを

- 校区探検・お店探索・郷土資料館見学を通じて箕面市のまちづくりと昔の暮らしについて学び、副読本「わたしたちのまち箕面」を活用し、持続可能な街づくりについて考えを深めました。

目標 12 つくる責任 つかう責任

- 給食の残食率を毎月調査し、残食の多いメニューについては、味付けや調理方法等の改善に努めました。
(全校平均残食率)

| | 米飯 | 副食 | 牛乳 |
|----------|------|------|------|
| 令和5年度1学期 | 5.9% | 5.4% | 3.7% |
| 令和4年度 | 4.8% | 4.3% | 4.6% |

- 食と健康に関する授業や、食品ロスに関する授業を行い、子どもたちが自発的に残さず食べようという意識を持つよう啓発しました。
- 浄水場やクリーンセンターの見学を通して、ごみの減量やリサイクルを行うことはCO₂削減につながっていることを学びました。

目標 16 平和と公正をすべての人に

- 小学校1校、中学校8校で広島、長崎、沖縄を訪れ、平和について学びを深めました。(2学期以降、小学校13校で実施予定)

今後の方向性

- ▶引き続き、給食の残食率を毎月調査し、残食率5%以下を目標として食べ残しの削減に取り組みます。
- ▶子どもたちの自然体験や野外活動体験を通じた青少年健全育成事業を継続して実施します。
- ▶太陽光発電設備については、引き続きパネル設置等に伴う電気工事を進め、今年度末に全校竣工する予定です。

① 妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援

◆子育て世代包括支援センターを拠点として、妊娠届をきっかけに、すべての妊産婦や子育て世帯に対して、妊娠期から出産・子育てまで一貫して身近で相談に応じ、様々なニーズに即した必要な支援につなぐ伴走型相談支援により切れ目のないワンストップのサポートを目指す。

令和5年度上半期取り組み

●妊娠届出時、全ての妊婦に対して妊婦面談を行った上で支援プランを作成し、安心・安全ですこやかな妊娠・出産、産後をサポートしました。また、必要に応じて関係室と連携しました。

[妊娠届出(9月末)] 407人

●令和5年1月から3歳6か月児健康診査に屈折検査を導入し、子どもの弱視の早期発見、早期治療につなげていくよう取り組みました。

●令和5年3月から全ての妊婦、子育て家庭が安心して出産・子育てができるよう、妊娠期から出産・子育て期まで寄り添いながら必要な支援につなぐ「伴走型相談支援」と、子育て支援サービスの利用負担軽減等を図る経済的支援「出産・子育て応援給付金(妊娠届出時・出生届出後各5万円、合計10万円)」の給付を一体的に実施しました。

[出産・子育て応援給付金(9月末)] 出産応援給付金(妊娠分):373件

子育て応援給付金(出産分):299件

●産婦健康診査、新生児聴覚検査の費用を助成し、医療機関と連携して産後の心と身体の健康維持や産後うつ防止、新生児の耳の聞こえにくさの早期発見に努めました。

[産婦健康診査(9月末)] 助成件数:627件

(病院から寄せられた支援が必要なかたに関する情報提供:32人)

[新生児聴覚検査(9月末)] 助成件数:319件

●核家族化により、家族等から十分な育児等の援助が受けられない産婦及びその子どもを対象に、病院等における宿泊型・日帰り型産後ケア、利用者の居宅等を訪問する訪問型産後ケアを実施し、産後の心身の不調や産後うつにつながる孤立化の防止に取り組みました。

[産後ケア(9月末)]

| | 訪問型 | 日帰り型 | 宿泊型 |
|--------|----------|----------|----------|
| 回数(人数) | 54回(19人) | 60回(28人) | 89回(27人) |

●育児相談会、両親学級、乳幼児健康診査において、気軽に相談できる場を設け、子育て支援センターなど地域の居場所につなぐことで孤立化の防止に努めました。

今後の方向性

- ▶ 今後、国が示す「こども家庭センター設置運営要綱」に基づき、現在設置している「子育て世代包括支援センター」を、令和6年4月に「こども家庭センター」に改編する方向で検討を進めます。
- ▶ 伴走型相談支援や産婦健診等を通して、支援が必要な妊産婦の早期把握、早期支援に努めます。

② 子育て支援と外出促進

- ◆子育て中の保護者が、どんなことでも気軽に相談できるよう、ICTも活用し、相談体制を整える。また、子育て世代の親子が孤独感なく日々過ごすことができるように、地域とのつながりをつくる機会として、気軽に集える、過ごせる場を数多く設ける。
- ◆市内公園においては、「幼児ユニット」を広げ、交流する機会を数多く設定するよう努める。

令和5年度上半期取り組み

- 5月8日から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置づけられたことを受けて、子育て支援センターの人数制限および入室時間制限を廃止しました。また、12時から13時は「おべんとうひろば」を再開し、おひさまルーム内で飲食できるようにしたことで、午後も利用するかたが増えました。
- 「出張子育てひろば」は、予約制を廃止し、気軽に遊びに来てもらえるようにしました。(83回実施：998組参加)
- 各地域での同世代の子どもを持つ保護者とのつながりを作る機会として気軽に集える「お外で遊ぼう！」のプログラムを実施しました。(13回実施：129組参加)
利用者同士の出会いの場となり、その地域のかたと顔見知りになれたことで、同年齢の子どもと遊ぶことやいろいろな地域情報を交換するきっかけとなり、参加者からは大変好評なプログラムとなりました。
- 「ふたごちゃんあつまれ」のプログラムは、保健師との連携もあり、7組のかたが参加しました。「双子のサークルを作りたい」という参加者からの提案があり、サークル立ち上げのための支援目的で別の日に多胎児が集える日を設定し、実施しました。
- 図書館の「おはなし会」が開催される日に、「おひさま Day」として出向き、子育て支援センターの周知活動を行いました。(15回実施：76組参加、21件相談)
- 子育て相談は、面談や電話だけでなく、メールアドレスを公開したことでメール相談もありました。(162件のうち電話9件、メール5件)
- 今年度着手予定の5公園(西脇公園、皿池公園、瀬川中公園、東山南公園、西宿2号公園)の「幼児ユニット(幼児向け遊具)」整備に向け取り組みを進めています。

今後の方向性

- ▶ 次年度「おひさまルームみのお」がサンプラザ建替えのため一旦閉鎖になるので、代替となる出張子育てひろばの場所を新たに確保し、その後の利用状況を見て開催場所の追加や変更の検討をします。
- ▶ 新たな開催場所について積極的に周知を行います。
- ▶ 予約申し込みや相談は、電話受付だけでなくICTも活用していきます。
- ▶ 人数制限なしの「一日まるごとあそびing・ミニ」や「クリスマス週間」などのイベントを開催します。
- ▶ 前年度に引き続き、「お外で遊ぼう！」のプログラムを実施していきます。
- ▶ 「幼児ユニット(幼児向け遊具)」のある公園の整備に、引き続き取り組みます。

③ すべての子どもが安心できる保育・幼児教育の実施

- ◆ 公立・私立を問わず、市内保育士・幼稚園教諭・保育教諭の子ども理解力・実践力・連携力の向上を図るため、保育・幼児教育センターにおいて、保育・幼児教育等に関する研修を企画・実施するとともに、支援保育・支援教育のあり方や幼児教育から小学校教育への円滑な接続にかかる調査研究を進める。

令和 5 年度上半期取り組み

- 包括連携協定を締結している各大学(梅花女子大学、大阪青山大学、大阪総合保育大学)等の学識経験者等を講師とした保育者向けの研修を企画し、実施しました。(18 回実施、延べ 946 人参加)
- 公立と民間、幼稚園・保育所・認定こども園といった施設種別を越え、ともに集い、ともに学び、箕面市就学前保育・教育施設全体の支援保育・教育のより一層の向上につながるよう、今年度から支援保育研究部会と支援教育研究部会を 1 つの研究部会とし、支援保育・教育研究部会を開催しました。(4 回実施、延べ 112 人参加)
- 地域における子育て支援の仕事に関心を持つかたを対象に、子育て支援員研修の平日コースを 8 月、9 月に実施しました。(定員 30 人)
- 幼児教育サポーターによる市内就学前保育・教育施設への巡回訪問を実施しました。(延べ 160 回)
- 箕面市就学前保育・教育カリキュラム(案)を市内の就学前保育・教育施設に配布し、ご意見をいただきました。
- 萱野小学校区をモデル地域として、公立・私立の園所、小学校、保護者で構成する「架け橋期カリキュラム開発検討会議」及び「ワーキンググループ」を開催しました。また、学校園所が一堂に会して研修会を開催しました。モデル地区の小学校、幼稚園、保育所を見学し、学び育ちゆく児童の様子や配慮等に関して共有し、今後のカリキュラム策定に生かします。
- 公立認定こども園の運営や保育・教育活動の検討を進めるとともに、定員や教育時間、給食費等に係る関係規定を定めました。
- かやのこども園設置連絡会を開催し、保護者・園所・市の三者で情報共有や意見交換を行いました。
- かやのこども園整備工事に関する保護者説明会を開催しました。

今後の方向性

- ▶ 引き続き、さまざまな分野の研修会及び研究部会を実施します。また、次年度に向け、受講者アンケートや巡回訪問を通じて研修ニーズ等の把握に努めます。
- ▶ 研修受講履歴の管理や保育者自身のモチベーションアップのため、保育・幼児教育センター主催の研修の受講証明書を発行します。
- ▶ 子育て支援員研修の週末コースを 1 月、2 月に実施予定です。(定員 30 人)
- ▶ 各就学前保育・教育施設からいただいたご意見を参考に、箕面市就学前保育・教育カリキュラムの令和 6 年 3 月の策定をめざします。
- ▶ 「架け橋期カリキュラム開発検討会議」を開催し、幼児教育と小学校教育との滑らかな接続について検討し、令和 6 年 3 月に架け橋期カリキュラム(素案)の策定をめざします。
- ▶ 令和 6 年 4 月のかやのこども園の開園に向けて、引き続き、園運営や保育・教育活動の検討を進めるとともに、現かやの幼稚園施設の改修工事を安全に進めます。
- ▶ 市内 3 箇所(西部・中部・東部地域)において、引き続き認定こども園設置連絡会を開催し、保護者・園所・市の三者で情報共有や意見交換を行います。

④ 貧困の連鎖の根絶

- ◆子ども成長見守りシステムのデータや教育・福祉等の関係機関の情報をもとに、支援が必要な子どもを誰ひとり取り残さないよう、教育委員会、学校、各種機関が連携して早期発見に努め、子どもたちを支援し見守りを続けていく。

令和5年度上半期取り組み

- 支援の必要な子どもを早期発見し、支援につなげるために「子ども成長見守りシステム」のデータを市内公立小中学校に提供するため、見守りシステム連携会議を6月より各校で行いました。7月下旬までに全校で会議を完了し、学校や関係機関と連携して情報収集を行い、必要に応じて支援につなぎました。

[公立小中学校への判定結果提供件数(6月～7月)] 1,923件

- 学校やスクールソーシャルワーカー、教育委員会の各担当、社会福祉協議会の生活相談窓口、子どもの生活・学習支援事業委託先のNPO法人等と連携・情報共有し、支援しました。

[関係機関との連携件数及び回数(9月末)] 件数:55件、延べ回数:233回

- 「相談・支援連携事業」について、生活習慣の乱れや社会性の不足など生活面の課題を抱える子どもに対して、居場所における相談支援、日常生活習慣の形成、社会性の育成のほか、体験活動等の取り組み、子どもや保護者に対する養育に必要な知識の情報提供、世帯全体の課題解決に向けた相談支援等を実施しました。

- 「生活・学習支援事業」について、学習習慣の定着等の支援を行う中で、子どもたち同士でわからない漢字を教えあうなど、子どもたちのモチベーションが高まり、自主的な学習につながりました。また、継続的に、子どもがシェフとなり、他の子どもたちへお菓子を作ってプレゼントする取り組みを通じて、食べる人の気持ちを考えて調理・配膳を行うなど、思いやりを育むことができました。

[利用件数(9月末)] 子どもの生活・学習支援事業:登録児童10人、延べ21人/週利用

日本財団の「子どもの支援施設」:登録児童16人、延べ35人/週利用

今後の方向性

- ▶ 学校への年度後半のデータ提供(12月を予定)や関係機関との生徒指導連携会議(月1回)の定例開催を通じ、必要な際にすぐ連携し、支援につなぐことができるよう、取り組みを進めます。
- ▶ 市が実施する「子どもの生活・学習支援事業」や日本財団の「子どもの支援施設」において、委託先NPO法人や日本財団との連絡を密にし、保護者・児童にとって最も適切な支援策をさらに提案できるように努めます。

① スポーツを通じた健康長寿への取り組み

- ◆乳幼児から若者、高齢者に至るまで、すべての世代の人たちが世代を超えて気軽にダンスや体操などスポーツを楽しめるよう運動機会の充実を図り、運動習慣の定着と体力向上を目指す。
- ◆就職や子育てを機に、スポーツから遠ざかっている方々にスポーツを再開してもらうための「大人のスポーツ・トライアル」を開催し、その後の継続に繋げていけるよう、指定管理者が開催している各種スポーツ教室への参加やスポーツ団体への加入を促していく。
- ◆世代を超えて気軽にスポーツを楽しむことができるスポーツイベントを開催することで世代間交流を促すとともに、すべての世代のかたがスポーツに親しむ場を創出していく。
- ◆スケートボードパークや室内温水プールなど、市民ニーズに沿って新しくスポーツを気軽に楽しむことができる魅力のあるスポーツ施設の整備検討や、利用者が気持ちよく安全にプレーできる環境を確保するため、スポーツ施設マネジメント計画に基づいて既存設備・備品の充実を図る。

令和5年度上半期取り組み

- 「大人のスポーツ・トライアル」について、受託者の箕面市立総合運動場指定管理者と、今年度の実施内容について検討を行いました。具体的には、実施曜日を毎週平日夜間から隔週土曜日夜間へ変更することや著名な講師を招聘することなど、参加率の向上や参加者の意識改革に寄与する魅力的な教室内容の実現を目指した検討を行いました。
- スケートボードパーク(約 1,000 m²)及び駐車場(約 30 台分)を整備するため、土地を取得し、5 月末より基本設計を進めました。
- 室内温水プール整備の実現可能性を分析するための支援業務委託について、(株)ウエスコと契約を締結し、学校プールと公共プールの機能を集約した室内温水プール整備の実現可能性について、本市の地域特性を踏まえながら検討を進めました。
- 「箕面市スポーツ施設マネジメント計画」に基づき、スポーツ施設の設備や備品等の定期更新を実施しました。利用者アンケートで、定期更新について好評価をいただいています。

今後の方向性

- ▶ チラシ等を用いた広報を実施し、各教室の参加率向上を目指します。
- ▶ 10 月より造成工事、スケートボードパーク及び駐車場整備を開始し、令和 6 年 3 月末の完成を目指します。また、スカイアリーナとの一体管理に向け指定管理者と調整を行うとともに、令和 6 年春のオープニングイベント開催に向けた準備を行います。
- ▶ 室内温水プール整備の実現可能性を分析するための支援業務委託の終了後(R5.10)、基本計画策定に向けて検討を進めます。
- ▶ ろ過装置の故障により、令和 5 年 7 月 21 日から 8 月 10 日まで第一市民プールの大プール・子ども用プールを利用制限した経緯を踏まえ、「箕面市スポーツ施設マネジメント計画」による備品・設備の定期更新に加え、指定管理者との協働による各備品・設備の点検等の取り組みを一層強化していきます。
- ▶ サントリーサンバーズとの包括連携協定等を活かし、「令和 5 年度指導者講習会」を実施します。スポーツを指導する際のポイント解説や、バレーボールの実技指導を行い、スポーツ活動を通じた地域の活性化や市民のスポーツ機会提供に向けた取り組みを実施していきます。

② 図書館サービスの充実

- ◆来館しなくても利用できる電子図書館の活用を推進するため、「電子図書館使い方講座」の開催など活用方法の周知について、より効果的な手法を検討・実施することで利用者数を増やすとともに、利用ニーズに沿った書籍の更新を定期的に行うことにより継続的な利用を促進し、誰もが読書できる環境づくりと市民の学ぶ機会の充実をはかる。また、大阪大学などの学生の協力による講座の開催などにより、さまざまな学びの場を創出する。
- ◆絵本の読み聞かせや子どもの居場所などの市民ボランティアの活躍の場、その活動を通じた市民同士の交流の場であることを活かし、その活動を支援し、乳幼児から高齢者まで誰もが利用しやすい市立図書館づくりにつなげる。

令和5年度上半期取り組み

- 「箕面・世界子どもの本アカデミー賞」について、電子図書館でノミネート作品特集を行うほか、箕面市との相互利用について協定を締結している豊能町立図書館においても「箕面・世界子どもの本アカデミー賞」のノミネート作品展示・貸出を行いました。また、特別オーサージットとして、直木賞受賞作家今村翔吾さん(箕面本屋大使)と林真理子さんのトークイベントを開催し(参加者 1,100 人)、読書活動の促進をはかりました。
- 昨年度に引き続き、「電子図書館使い方講座」及び「はじめてのスマートフォン体験講座」を月 1 回開催しました。

<電子図書館使い方講座・はじめてのスマートフォン体験講座 参加人数>

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 |
|------------------------------|-------------|----------------|--------------|--------------|----------------|
| 電子図書館使い方講座 (同日2回開催。定員各5人) | 5人 (4人) | 申込なし (申込なし) | 2人 (4人) | 申込なし (5人) | 申込なし (1人) |
| はじめてのスマートフォン体験講座 (定員20人) | 8人 (12人) | 8人 (9人) | 12人 (11人) | 5人 (開催せず) | 申込なし (申込なし) |

※()は令和4年度同月の利用実績

※令和4年度7月は、申込2名で最低開催人数(5名)に達しなかったため開催しなかった。

- 船場図書館をさらに地域の市民に親しまれる図書館とするため、乳幼児向けの「はじめてのおはなしかい」や各種テーマに沿った図書展示を行うほか、船場生涯学習センターと連携し生涯学習講座「図書館員の検索術」(参加者 28 人)を実施しました。船場図書館の貸出冊数及び貸出人数は、令和2年度に閉館した萱野南図書館の約 1.3 倍となっています。

<船場図書館はじめてのおはなし会>

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 実施回数 | 2回 | 2回 | 2回 | 2回 | 2回 | 2回 |
| 参加人数 | 14人 | 14人 | 22人 | 24人 | 31人 | 27人 |

<船場図書館利用状況>(個人貸出のみ)

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 貸出冊数 | 23,394冊 (16,149冊) | 21,938冊 (14,478冊) | 21,585冊 (16,094冊) | 24,290冊 (17,770冊) | 23,378冊 (19,115冊) | 20,893冊 (16,954冊) |
| 貸出人数 | 6,917人 (4,889人) | 6,520人 (4,563人) | 6,513人 (4,845人) | 7,224人 (5,367人) | 6,875人 (5,741人) | 6,272人 (5,145人) |

※()は令和元年度の萱野南図書館の利用実績

- 図書館での親子や保護者同士の居場所づくりをさらに進めるため、西南図書館 2 階エリアの運営手法を見直し、受託事業者を募集しました。

今後の方向性

- ▶ 「はじめてのスマートフォン体験講座」や「電子図書館使い方講座」について、デジタル活用が苦手な方や障害があるかたにも電子図書館の活用が進むよう、開催場所などを検討し、より効果的な取り組みを進めます。
- ▶ 船場図書館においては、大阪大学との連携講座や子どもを対象としたイベントなどを引き続き実施します。
- ▶ 子どもから高齢のかたまで、誰もが利用しやすい施設として、本に親しむ機会となる行事や本のテーマ展示、親子や保護者同士の居場所となる空間づくりなど様々な取り組みをしながら、より親しみやすい図書館となるよう図書館サービスの充実を図ります。

③ 生涯学習の場の充実

- ◆生涯学習講座において、演劇体験や陶芸教室などの開催により受講者同士が交流することで、講座後のグループ活動への加入など学びの場の広がりや継続に繋げる。また、いつでも、どこでも学べるオンライン講座の開催や施設利用料金支払い方法の利便性向上を図り、学習機会の支援を行う。
- ◆大阪青山大学など包括協定を締結する各大学との連携による講座等を実施するとともに、メイプル文化財団や国際交流協会等と連携した講座やイベントの実施により、国際理解の推進や芸術文化活動の振興の取り組みを進めることで、市民が学びを深め、活かす場を提供する。
- ◆魅力ある史跡の保護・復旧や、見やすい案内看板の設置を進めるとともに、史跡巡りのイベントを開催することで、市民が文化財に触れ、郷土愛を育む機会を増やす。

令和5年度上半期取り組み

- 生涯学習講座において、図書館と連携した講座を実施し、市立総合運動場と連携した子ども向けの講座も実施しました。
- 7月から開始した箕面シニア塾において、市内の様々な団体等による講座や大阪青山大学と連携した栄養講座を開催しています。
- 公共施設予約システムの契約期間満了に伴い、次期事業者選定のための仕様を作成し、5月に公募を行いました。次期システムでは、キャッシュレス決済機能を実装し、利用者の利便性の向上を図ります。
- 令和5年度第1回社会教育委員会議及び生涯学習審議会を7月6日に合同で開催し、今年度当初予算(生涯学習担当)をはじめ、みのおサンプラザ1号館建替えに伴う公共施設の再編に関することや市民ギャラリー設置などについて、意見交換を行いました。
- 「箕面船場における文化芸能国際交流のまちづくりワークショップ及びアートフェス@箕面船場ひろば実行委員会」を4回開催し、「アートフェス@箕面船場ひろば」イベント開催に向けた準備や、実施後の振り返りを行いました。
- 7月15日に文化芸能劇場大ホールと大阪大学箕面キャンパスピロティにて「アートフェス@箕面船場ひろば」を開催し、市民が船場における文化芸能国際交流を身近に感じられるイベントとなりました。
【主催】：箕面市、(公財)箕面市国際交流協会、(公財)箕面市メイプル文化財団
【共催】：令和5年度アートフェス@箕面船場ひろば実行委員会(構成団体：箕面市人権文化部文化国際室、公益財団法人箕面市国際交流協会、公益財団法人箕面市メイプル文化財団、特定非営利活動法人市民活動フォーラムみのお、箕面船場まちづくり協議会、大阪船場繊維卸商団地協同組合、船場西地区連合自治会、大阪大学人文学研究科〈箕面キャンパス〉、大阪大学外国語学部・大阪外国語大学同窓会「咲耶会」)(順不同)
- 八天石蔵及び町石のうち7カ所について、補修・整備を実施し、新たな案内説明板、防護柵の設置により、市民が史跡についてより安全に学びを深められるようになりました。
- 「みのお八天石蔵ウォークトライアル」について、引き続き多くの方に参加いただけるよう、臨時バスでの参加者運送や簡易トイレの設置など、3回目の開催(R6.3 予定)に向けた検討を行いました。
- 郷土資料館企画展「みのお音楽玉手箱」、「戦時生活資料展」、企画展関連講座「昔のレコードを蓄音機で聴いてみよう」、「私の戦争体験」を開催しました。

今後の方向性

- ▶ 陶芸教室や園芸教室など受講者同士の交流が図ることができる講座を企画します。
- ▶ オンライン講座を実施し、いつでも、どこでも学べる機会を創出します。

- ▶ 国際交流協会や大阪大学等と連携した講座を企画していきます。
- ▶ 令和5年度第2回社会教育委員会議及び生涯学習審議会を開催します。
- ▶ 引き続き八天石蔵のうち1ヵ所の整備と町石の法面防護実施に向けて準備を進めます。
- ▶ 3回目の「みのお八天石蔵ウォークトライアル」の開催に向け、実行委員及び関係団体と密に連絡・調整を行います。
- ▶ 引き続き魅力ある展示や講座の開催に努め、広く郷土学習の機会を提供します。